



慶應義塾大学ビジネス・スクール

エクソンモービル有限会社の ERP“STRIPES”

- 5 「トップは、他社が ERP を導入したことを聞いて、うちも入れると言っています。そのためには、どこの会社のシステムがいいのかを今検討中で、既に導入した会社にお問い合わせをしているところです。しかし、担当者レベルのざっくばらんな話の中では、それが経営のために役に立ったとか、お勧めだという話は聞きません。むしろ、莫大な導入費用に加え、毎年のランニングコストも馬鹿にならないというぼやきを聞きます。しかし一度導入した以上
- 10 は、やめるわけにはいかないというのです」

- ケースライターは日本企業への ERP の導入と運用、効果について関心をもっていた。しかし、日本企業の経営企画担当者や経理担当者にインタビューをするたびに、上記の類の答えが返ってきた。その答えの多くは、トップマネジメントが率先して入れたがっているから、
- 15 あるいは世の中ではやっているからというものばかりであった。

- 日本企業で ERP 導入、そして導入後の運用はなぜ困難なのか。日本企業のマネジメントスタイルとの関係があるのか。これを模索するにあたり、ケースライターは「日本で ERP を導入しうまくいっている会社のひとつ」という評判のエクソンモービルのうわさを聞いた。エクソンモービルは文字通り外資系企業である。しかし、長年日本市場でビジネスを行っている。
- 20 このような企業がなぜ、ERP をうまく使えるのか。ケースライターはエクソンモービルの ERP について調べ始めた。このケースは 2003 年時点での情報とインタビューを基に作成されている。

このケースは慶應義塾大学教授高木晴夫および同教授横田絵理が公表資料および取材によりクラス討議の目的のため作成した（2005 年 4 月）。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、ケースの複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8523 神奈川県横浜市港北区日吉本町 2 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail case@kbs.keio.ac.jp）。また、ケースの注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/case/index.html>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、本ケースのいかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またはいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送は、これを禁ずる。

Copyright©2005 は高木晴夫および横田絵理が保有する。